

《中学校 社会科》

地理的分野における思考力・判断力を育むための授業展開の工夫 ～資料を活用するスキルアップの学習指導を通して～

那覇市立金城中学校教諭 照屋 茂伸

<研究の概要>

本研究では、沖縄県の中学校社会科において、資料を読み取る応用問題に課題があるため、地理的分野における資料を活用する能力を育成し、思考力・判断力を育む取り組みを行った。資料の読み取り方・比較の仕方を段階的に身に付けるスキルアップの学習指導を通し、資料から必要な情報を読み取り、自分の意見を論述し、お互いの意見を練り合う活動を取り入れた。その結果、資料から社会的事象や事象間の関連・課題を考察する力、さらにお互いの意見を練り合うことで多面的・多角的に考察する力が身に付くことができ、地理的な思考力・判断力を育むことができた。

<研究のイメージ>



<研究の成果>

- 資料を読み取り、比較する活動を段階的に学ぶスキルアップの学習指導を行ったことで、資料から必要な情報を読み取る力が身に付いた。
- 社会的事象についての理解が深まり、自分の考えを論述し、交流の場で意見を練り合うことで、地理的な思考力・判断力を育むことができた。

目 次

I	テーマ設定理由	17
II	研究目標	17
III	研究仮説	17
	1 基本仮説	
	2 作業仮説	
IV	研究構想図	18
V	研究内容	18
	1 地理的分野における思考力・判断力の育成	
	2 資料を読み取る力とは	
	(1) 社会科における資料とは	
	(2) 資料から必要な情報を読み取る力の育成	
	3 資料から必要な情報を読み取る力のスキルアップについて	
	(1) スキルアップとは	
	(2) スキルアップの学習指導	
VI	授業実践(第2学年)	21
	1 単元名『沖縄の自然環境とくらしや産業』	
	2 単元目標	
	3 指導計画【学習単元と学習活動(スキルアップの学習指導)】	
	4 本時の学習	
VII	結果と考察	22
	1 作業仮説(1)の検証【結果】【考察】	
	2 作業仮説(2)の検証【結果】【考察】	
VIII	成果と課題	24
	1 成果	
	2 課題	

《参考・引用文献》

地理的分野における思考力・判断力を育むための授業展開の工夫 ～資料を活用するスキルアップの学習指導を通して～

那覇市立金城中学校教諭 照屋 茂伸

I テーマ設定理由

中学校学習指導要領解説において、21世紀は「知識基盤社会」「グローバル化」の時代となっており、「生きる力」を育むことがますます重要だと示されている。

学校教育法第30条第2項では、「生きる力」を育むために必要なものは「基礎的・基本的な知識・概念や技能の習得」であり、「これらを活用し課題を解決する能力が思考力・判断力である」と示され、中学校学習指導要領解説社会編では、思考力・判断力を育む要点の1つとして「様々な資料を適切に収集、活用して事象を多面的・多角的に考察し公正に判断すること」と示されている。しかし、平成26年度沖縄県中学校学力到達度調査(社会科)によると記述式問題の正答率が低く、資料を読みとる応用問題に課題があると分析されている。本校も同じような状況で、特に時差を求める問題(正答率32%)レポート作成時のグラフの使い方の問題(正答率38%)等、資料を活用し思考力を必要とする応用問題に課題がある。これまでの社会科における教育実践を振り返ると、資料を読みとる力を身に付けたり、事象間の関連を追及させ生徒に思考を促すことが充分ではなかった。資料が余り読み取れず、話し合いに参加できない生徒もいたと思われる。

以上のことから、資料から疑問を見出したり関連づけたりする活用能力を育成するため、資料の読み方・比較の仕方を段階的に身に付けられるスキルアップの学習指導を工夫する。さらにお互いの意見を練り合うことで多面的・多角的に考察し思考力・判断力が身につくことができると考え本研究テーマを設定した。

II 研究目標

地理的な思考力・判断力を育成するため、資料から必要な情報を読みとり社会的事象間の関連を考察する力を身に付けるスキルアップの学習指導の工夫について研究する。

III 研究仮説

1 基本仮説

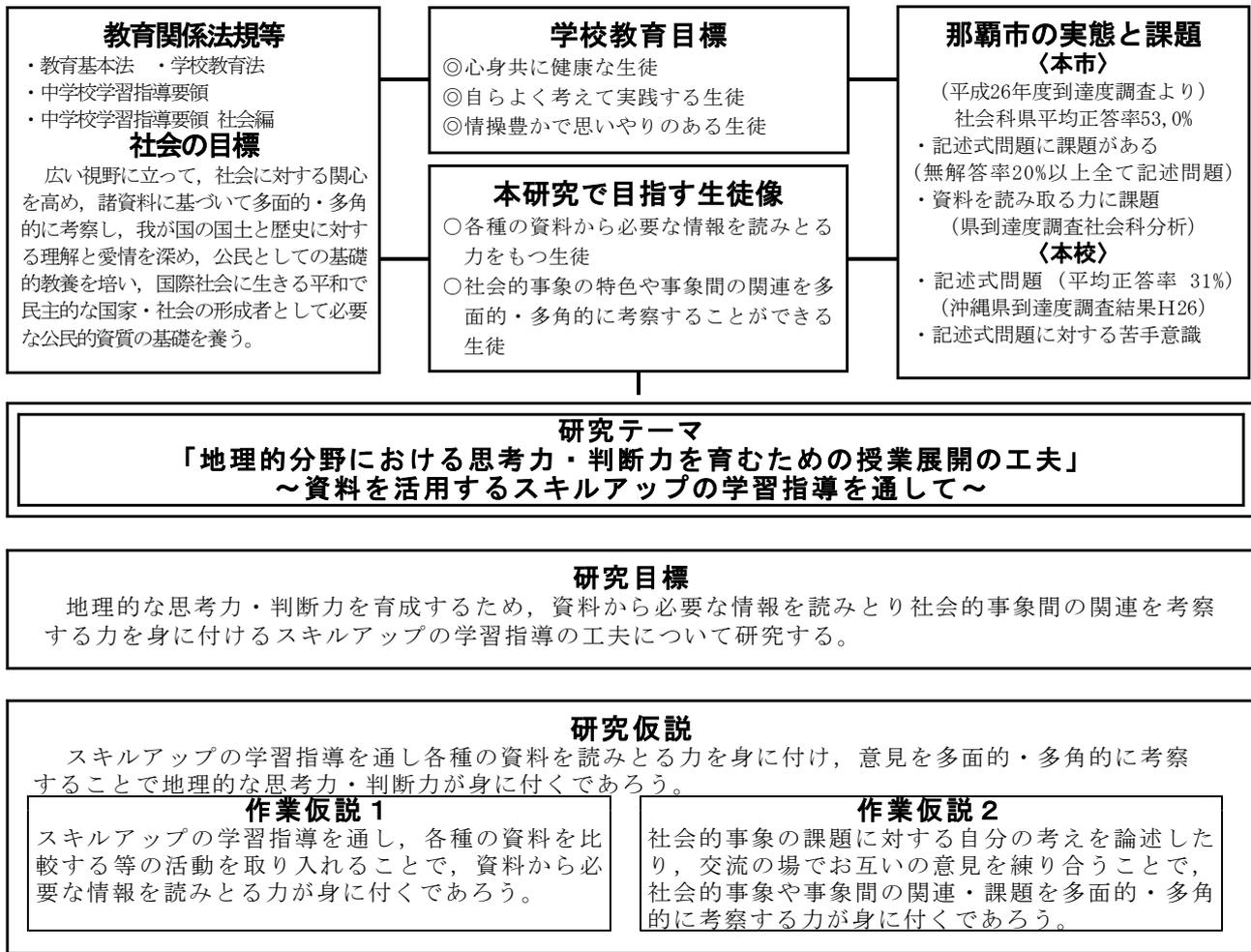
スキルアップの学習指導を通し各種の資料を読みとる力を身に付け、意見を多面的多角的に考察することで地理的な思考力・判断力が身に付くであろう。

2 作業仮説

(1) スキルアップの学習指導を通し、各種の資料を比較する等の活動を取り入れることで、資料から必要な情報を読みとる力が身に付くであろう。

(2) 社会的事象の課題に対する自分の考えを論述したり、交流の場でお互いの意見を練り合うことで、社会的事象や事象間の関連・課題を多面的・多角的に考察する力が身に付くであろう。

IV 研究構想図



V 研究内容

1 地理的分野における思考力・判断力の育成

中学校学習指導要領解説社会編における地理的分野の目標(4)では「具体的な活動を通し地理的事象の関心を高め、資料を適切に選択、活用し地理的事象を多面的・多角的に考察し、表現する能力や態度を育てる」と示している。資料を活用することで地理的事象の関心を高め、地理的事象について考察し、多面的・多角的に判断する能力を育てることが「思考力・判断力」の育成につながると推測できる。

小原(2011)は「思考力・判断力」を育むための学習活動として次の4つを指摘し構造化している(図1)。その内容は「4つの活動の中で『資料から必要な情報を集めて読みとる』活動は、社会科の授業において『基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得』にあたり欠くことのできない活動である」と示している。そこで

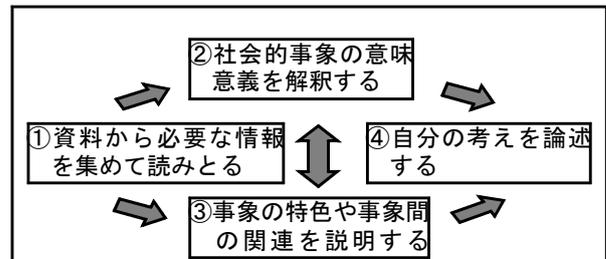


図1 「思考力・判断力・表現力」育成のための学習活動の構造化【小原(2011)より引用】

本研究では資料から必要な情報を読みとる力を1つのスキルとし、そのスキルアップを図る資料の読み取り方や比較の方法を学び「思考力・判断力」を育む手立てとする。

2 資料を読みとる力とは

(1) 社会科における資料とは

大森(2000)は、資料を表1のように分類している。特に社会科の場合は多種多様であり、その資料も教師が提示するものもあれば生徒が自ら調べたり、作り出したりするものもあると思われる。さらに大森(2000)は「資料は教材化の仕方によって『学習する事柄の証拠となるデータ』となったり、あるいはわき役として学習を助け、効果をあげる役割を果たすもの』となる場合もある」と述べている。これらのことから、資料は社会科の授業の中でも必要不可欠なもので、大きな役割を担っていると捉えられる。

表1 資料の形態からの分類【筆者作成】

(文書資料) 図書, パンフレット, 文献等 (視聴覚資料) スライド, 写真, テレビ等 (統計的資料) 統計表, 統計図表等 (実物的資料) 現物, 標本, 模型 等
--

(2) 資料から必要な情報を読みとる力の育成

吉田(2010)は「社会的事象に対して複数の観点から見たり考えたりすることによって、社会的事象を広い視野から捉えることができる力を、育てることが求められている」と述べている。ここでいう複数の観点が社会科の学習において必要不可欠な資料のことだと考えられ、図や絵、統計などの資料から必要な情報を読みとり、理解を深めることで社会的事象を広い視野から捉える力が育成されると思われる。

山中(1999)は、学習過程への資料の位置づけ方と活用ポイントとして次の6つを示している。

表2 学習過程への資料の位置づけ方と活用ポイント【山中(1999)より筆者作成】

- | |
|---|
| ① 資料を複数比較対応させ、そこから疑問を感知するよう用いる。(問題意識誘発の段階) |
| ② 資料分析の仕方をわきまえて用い問題の焦点を明らかにする。(問題点の明確化の段階) |
| ③ 資料の収集と選択、分析考察を綿密に行い、問題状況の精査分析を明らかにする。
(問題状況の精査分析の段階) |
| ④ 資料の対応や比較考察を行い関連を発見吟味する。(予想を立て仮説に洗練する段階) |
| ⑤ 必要とされる資料を選択収集し吟味する。(仮説を検証する段階) |
| ⑥ 必要な資料を選択精選し、適用する。(結論を吟味し、応用する段階) |

生徒は、資料を複数対応することで、疑問を見出させたり、資料分析を的確に行うことで、問題の焦点を明らかにすることができる。さらに、必要とされる資料を的確に選択・収集することで、問題の状況の分析を明らかにすることができ、仮説を検証する段階や結論を吟味する際にも資料の活用が大切になると述べている。

3 資料から必要な情報を読みとる力のスキルアップについて

(1) スキルアップとは

スキルとは通常、教養や訓練を通して獲得した能力のことといわれている。一般的に企業のビジネスマナーの向上などをスキルアップと呼ぶことが多い。本研究では資料から必要な情報を読みとる力の向上をスキルアップと位置づけることとし、その手立てとして、資料の分析の仕方、比較、考察などの方法をまとめた、教師自作の「資料読み取りガイド」を生徒に活用させ、その情報を社会的事象の理解と課題解決に役立て思考力・判断力につなげることとする。

1つ1つのスキルを向上させるため、第1時では、1つの統計資料の分析把握から行い資料を読み取る。第2時では、複数の統計資料を比較分析し情報を読み取り考察する。第3時では、複数の写真から分析把握、比較を行い考察する。第4時では、生徒自ら資料を収集・選択し分析考察を綿密に行い発表する。そして、第5時では統計資料を比較・考察したことを発表しグループ内で意見交換を行い練り合う。このような、段階的なスキルアップの学習指導を進めていく。そして、その学習指導から、生徒が資料を読みとる力を身に付け、地理的な思考力・判断力を身に付けられるよう取り組んでいく

(2) スキルアップの学習指導

資料から必要な情報を読みとるためには、資料の内容を細かく把握し、それらを理解した上で比較、分析などの作業に進んでいくと考えられる。山中(1999)は「資料活用を育めるためには、資料を随時、子どもにも主体的な活用の契機方法を考えさせ、その技能を導きつつ指導することが肝心である」あり子ども達が資料を主体的に活用することの必要性を述べている。スキルアップの学習指導では、毎時間の授業の中で「資料読み取りガイド」を使用し資料読み取り、比較し、生徒が主体的にその資料から問題の焦点を図れるよう取り組む(図2)。

資料には写真、地図、スライドなどの視覚資料と図書、文献、パンフレット、新聞等の図書資料、統計表、統計図表等の統計的資料や現物、模型、標本等の実物的資料など多くの資料がある。そして、それぞれ授業内容に沿った資料が教科書で活用されている。

それらの資料から、生徒が「どの資料のどの部分を見て資料の内容を読みとるのか」というところが重要なポイントとなってくる。

「資料読み取りガイド」では多くの資料の中から、教科書に使用されている、統計資料と写真の読み取り方と比較の仕方を具体的に提示し段階的に、資料を読み取るというスキルを確実に習得させ、生徒の思考力・判断力の育成につなげていく。

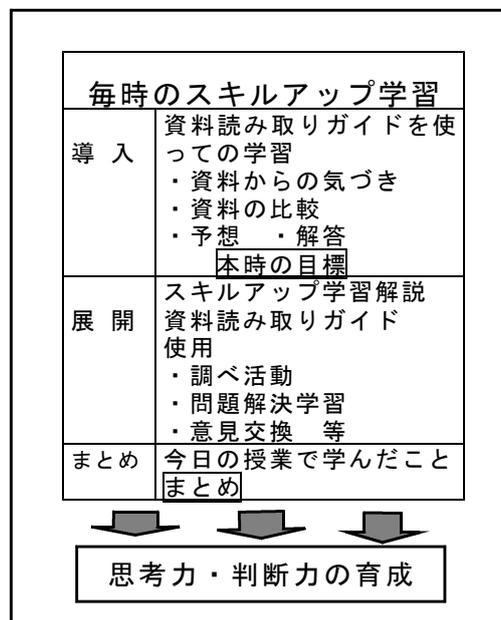


図2 スキルアップ学習内容【筆者作成】



図3 「読み取りガイド」【筆者作成】

VI 授業実践(第2学年)

1 単元名 「沖縄の自然環境とくらしや産業」

2 単元目標

沖縄の産業について、気候や地理的条件等に着目して捉えさせる。

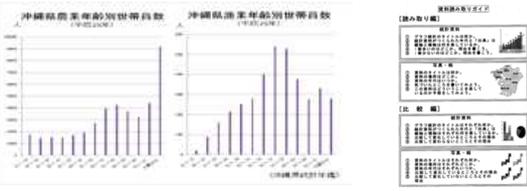
3 指導計画(全5時間)

時	学習内容	学習活動【スキルアップ学習】
第1時	九州地方のようすと火山のめぐみや防災の取り組み	1つの統計資料から必要な情報を読みとり、その理由を書く。[第1段階]
第2時	九州地方の都市や工業自然環境	写真から必要な情報を読みとり、その理由を書く。[第2段階]
第3時	自然環境と農業のくふう	複数の資料から必要な情報を読みとり、その理由を書く。[第3段階]
第4時	沖縄の自然環境とくらしや産業Ⅰ	自ら資料を選択・収集し必要な情報を読みとって発表する。[第4段階]
第5時	沖縄の自然環境とくらしや産業Ⅱ	複数の資料から必要な情報を読みとり、その理由をグループで意見交換し、グループの意見をまとめる。[第5段階]

4 授業仮説

交流の場において、沖縄の自然にあったこれからの産業について多面的・多角的に考察することで、沖縄の産業と自然との関わりについて捉えることができるであろう

5 検証授業【5/5時】

	学習活動	指導上の留意点
導入	<p>1 沖縄県産業生産額の資料から気付いたこと読み取る。</p> <p>2 沖縄県の第3次産業の多さと第2次産業の少なさに気づき、理由を考える</p> <p>3 本時の目標を設定する</p> 	<p>○資料読み取りガイドを活用し沖縄の産業生産の特徴を確認する</p> <p>①資料を比較させ必要な情報を読みとる。 ○沖縄は観光が盛んで第三次産業が多い等</p>  <p>導入で活用した「沖縄県産業別割合」の資料</p>
展開	<p>4 「沖縄農業年齢別人口」と「沖縄漁業年齢別人口」「沖縄県産業別人口」のグラフを比較させ考えさせる</p> <p>5 沖縄の自然とくらしにあった今後の産業の発展について考える</p> <p>(1)個人で考える(2)グループで意見交換・意見のまとめ</p> 	<p>①資料を比較させ、必要な情報を読み取るようにする。</p> <p>②お互いの意見を練り合い、論述する。</p> <p>展開で使用した沖縄県農・漁業者年齢別割合資料</p> 
まとめ	<p>6 沖縄の産業を学習して学んだことを書かせる。</p> <p>まとめ：沖縄の産業は、暖かい気候や自然環境、地理的条件などが大きく関わっている。</p>	<p>沖縄の産業について学んだことを文章でノートに書かせる。</p> <p>○九州と沖縄の共通点を再確認させる</p>

Ⅶ 結果と考察

1 作業仮説1の検証

スキルアップの学習指導を通し、各種の資料を比較する活動等を取り入れることで、資料から必要な情報を読み取る力が身に付くであろう。

【結果】

資料を読み取りやすくするために、「資料読み取りガイド」を作成し、大事な部分を押さえさせ、段階的に資料を読み取るスキルアップの学習指導を行った。

子どもたちのアンケートでも「読み取りガイドを使用したら、資料をじっくり見るようになりました。」「資料読み取りの5つの手順で、資料からわかることを見つけられるようになった」という意見が多数あった(表1)。

授業後のノートでも「沖縄の農業従事者のグラフ」を見て気付いたことなどの質問に対し、「何十代の人が多い」「若い人が少ない」など、生徒が社会的事象に関する理由を説明する語句の数が多くなった。まとめてみると第1時では5個以上の理由を書く生徒は16% に対し第5時では71%。また第1時では理由が1個以下の生徒が62%に対し第5時では6%に減少していた(図1・2)。

しかし複数の資料を見て答える問題では、アンケートの結果、まだ読み取ることができない生徒がいた。特に、誤答例が多かったものは、2つのグラフを読み取り、比較した答えではなく、1つのグラフのみを読み取り、判断する生徒が見られた。資料を比較して、違いを考察したり社会的事象間を関連づける等、社会的視野を広げる活動が不十分な生徒が若干見られた。

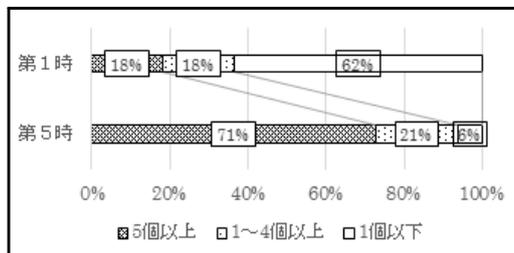


図1 社会的事象を説明するときの理由の数

(Q1)九州地方の魅力は何でしょう。

①珊瑚礁や火山など自然に恵まれていて、②温暖な地域でしか取れない農作物が豊富だから

2つの理由でまとめている

(Q1)第1次～第3次産業のグラフから気付いたことを書いてみよう。

自分は第1次産業～第3次産業のグラフを見て、①第1次産業は人が少ないのに②高齢の人の割合がとても高い事に気づきました。また、③第3次産業の中でも④観光業の割合が高い事に気づきました。⑤過疎化も進んでいるのかなと思いました。

5つ以上の理由でまとめている

図2 資料を読み取り書いた生徒Aの

ノート【(上)第1時、(下)第5時】



図3 資料を読みとり意見をまとめている様子

表1 「あなたは資料を見て答える問題を解くことができましたか」の問いについての生徒の感想

- 資料読み取りの5つの手順で1つずつ資料からわかることを見つけることができた。
- 1回1回資料読み取りを行って、どんどん読み取れることができるようになった。
- 資料読み取りガイドに必要な事柄が具体的に示されていたのでとても読み取りやすかった。
- グラフの特徴を理解し、自分の考えをまとめることができた。
- 資料読み取りガイドがあったから、資料をじっくり読み取ることができるようになった。

【考察】

「資料読み取りガイド」を活用し統計資料の内容を丁寧に確認することで、今までよりも、統計資料を細かく分析・把握し、その変化の理由までしっかり考察できるようになってきたのではないかと考えられる。複数の統計資料の比較になると、読み取ることができない生徒が若干いる理由は、複数の社会的事象をつなぎ合わせ考える活動が苦手な生徒が多いと推測される。社会的事象を関連づける資料を収集・選択し効果的な場面での提示の工夫を行うことで、読み取った資料の知識をつなぎ合わせることが可能となり資料の比較・考察を行い、社会的視野の広がりにつながると考える。

2 作業仮説2の検証

社会的事象の課題に対する自分の考えを論述したり、交流の場でお互いの意見を練り合うことで社会的事象や事象間の関連・課題を多面的・多角的に考察する力が身に付くであろう。

【結果】

グループ活動で、個人の意見を発表し、練り合い、グループの意見としてまとめる作業を行った(図4)。グループによって時間の差はあったが全グループ、意見をまとめることができた(図6)。また第1時の論述では単文で思考が見えない生徒が多かったが、本時では自分の考え、グループの意見を、細かい内容で論述している場面が多く見られた。アンケートでも「論述で答える問題は得意ですか」の問いに対し検証前の35%から検証後71%となった(図5)。

しかし、事前アンケートでは「グループ学習で自分の意見を発表することはできますか」の問いに対し、肯定的に答えた生徒が多数だったが、実際に行ってみると自分の意見は述べてはいるが、他の生徒の意見に対して積極的に質問を行う場面はあまり見られなかった。また、あるグループにおいては、グループ内の一部の生徒のみで話し合ったり、練り合う場面等も見られた。



図4 グループで意見交換をしている様子

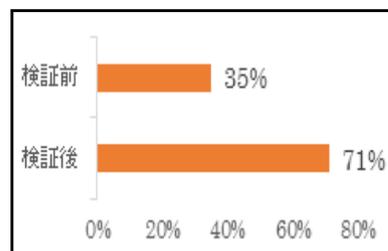


図5 「論述で答える問題は得意ですか」の検証前後のアンケート結果

(Q2) 南九州では農業に適さない土地をどのように利用しているのだろうか
私たちはシラス台地を有効利用できる方法は畑作などだと思います。

端的な内容でまとめている。

図6 グループでの意見交換後に書いた、生徒Bのノート【(上)第3時、(右)第5時】

(Q2) 今後の沖縄の産業について考えてみよう

私たちは第3次産業はもっと観光客を呼び込み、第2次産業ではそこまで多くしないでもいいと思います。理由はせっかく南の島という印象があるのに、工業を取り入れることでイメージがくずれそうだからです。

第1次産業は、もう少し多くしていいと思います。理由は自然が豊かという印象をつけることができるし、沖縄県産の物がもっと増えると客の呼び込みにもなるからです。

細かい内容でまとめ、理由まで説明できている。

【考察】

グループ活動の中で、論述形式でまとめた自分の意見を発表し、グループの意見としてまとめることができたのは、思考力・判断力を養うことができたからだと考えられる。それは、資料を読み取ることで社会的知識を得ることができ、その知識が練り合いを行う際に使用されていたと考えられる。事前アンケートで行った記述式問題の結果において、回答率が検証授業前の26%に対し検証授業後66%に増えていたことも、資料内容の把握ができていたからだと考えられる(図7 図8)。



図7 グループ内で、意見をまとめている様子

しかし、意見交換を行う際、他の生徒の意見に質問等が少なかったことは、アンケートにも出ていた、「自分の意見にあまり自信がない」「他の生徒の意見に質問すると、間違ったことを言わないか心配」ということが影響していると考えられる。答えではなく自分の考えを自信をもって発表し、他の生徒に対しても質問意見等ができるためには、単元を見通した効果的なグループ活動の場の設定や、会順・役割分担などグループ活動をスムーズに進めるための手立ての工夫が今後さらに必要だと考える。

(問1) 九州地方の魅力は何だろうか
○気温がちょうど良い。
○歴史的建造物が多い
○温泉が多い

簡条書きに書いている

(問2) 今後の沖縄県の産業について考えてみよう
第1次産業は若い人より、お年寄りの方が働いているので、第3次産業だけでなく、第1次産業にも手を入れたらいいと思いました。第2次産業に手が入れられないなら全国よりも多い第3次産業にもっと手をいれたらよいと思います。

つなぎの文と自分の意見を挿入し、論述形式でまとめている。

図8 生徒Cのノート【左(第1時), 右(第5時)】

Ⅷ 成果と課題

1 成果

- (1) 資料読み取りガイドを活用し、資料を読み取り、さらに比較する活動を取り入れたことで、資料から必要な情報を読み取る力が身に付くことができた。
- (2) 資料から必要な情報を読み取ることで、自分の考えを論述したり、交流の場で自分の意見を発表することができた。

2 課題

- (1) さらに社会的視野を広げるため、社会的事象を関連づける効果的な資料の収集・選択と効果的な場面での資料提示の工夫が必要である。
- (2) 資料から得た知識・疑問・予測等で、さらに意見交換が活発になるよう単元を見通した効果的な場の設定やグループ内での役割分担等の手立てが必要である。

《主な参考・引用文献》

『中学校学習指導要領解説 社会編』	文部科学省	日本文教出版	2008
『思考力・判断力をつける中学地理授業モデル』	小原友行	明治図書出版	2011
『新社会科への対応1・2 統計資料・写真類読み取り授業』	吉田高志	明治図書出版	2010
『新訂 社会科教育指導用語辞典』	大森照夫 佐島群巳	教育出版	1999